

脚夫の給料

は一旅店及一馬驛子あり。馬驛子(馬牌子又は馬堡子の轉訛ならんか)とは何ぞ、曰く脚夫の繼立所にて、即ち驛傳なり。(蒙古人は烏拉と稱す)新疆省内は一般各站(驛なり)に之を設け、一人の師爺(スライエ)即ち司事は、三四名の脚夫(乘馬)を監督し、銀卅五兩の月俸を受け、内馬糧及脚夫の給料若干を拂ひて、殘餘を自己の所得とす。但し脚夫の給料は、一年銀四十五兩遞送は一日一回、或は四五日に一回等、公用書翰の有無に依る。此の地一帶東北の風多きも、亦前者の如く大なること無しと。地形は平坦開濶なる沙磧地にして、所々砂丘起立し、概ね南北に走り、飲用には二井水の四時湧出して其質佳良なるもの有り、燃料は三道嶺より石炭を仰げり。

翌、七個井(チイコチン)に向つて出發行くこと約二里、數多の大沙丘南北に並走し、比高約五十米突、其れより道路は山中に入りて、約七里、車輟(チヨク)盧(ル)の狹谷に進む。谷間僅に十五乃至三十米突、南側概ね急傾斜、北側稍々緩に、其の比高約百米突内外に過ぎず。斯くして狹谷を出づれば、則ち七箇井の沙原とし、一碗泉を距る十七里、人家四戸、一棚(四名)の騎兵ありて、飲料井水稍々良く、燃料は附近の紅柳を採りて不足なし。此地は天山北路の故城及び巴里坤に通ずる大道の分岐點とす。該道は冬期雪深くして

天山北路
への岐點